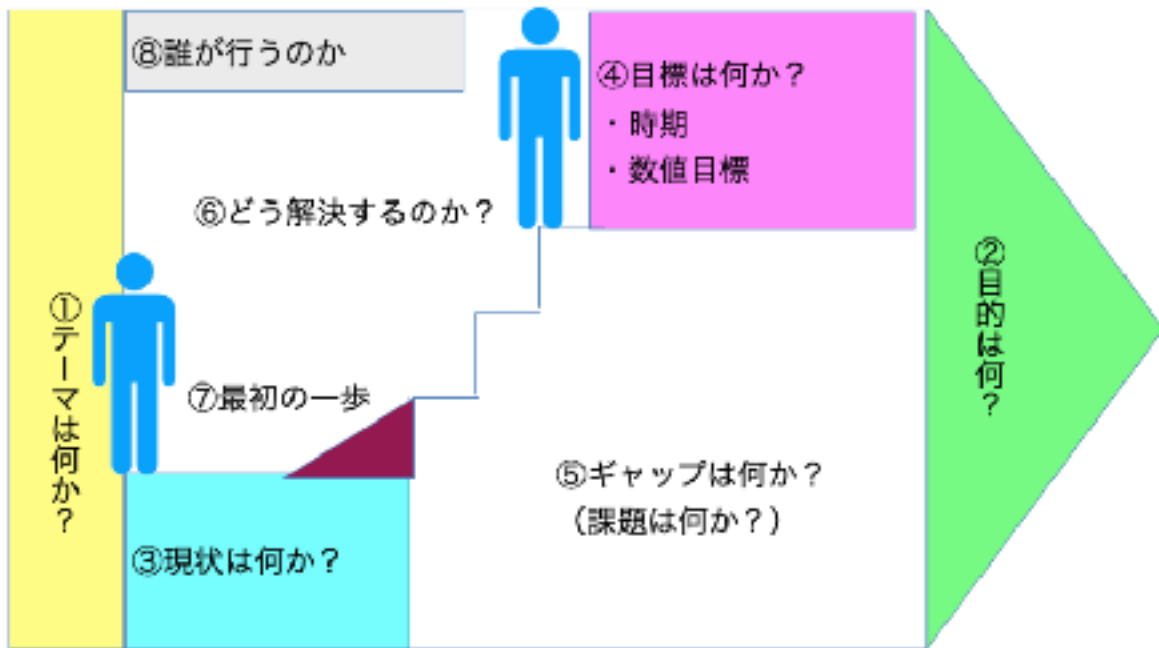


LS1：これから技術士を受験する人の課題



②目的はなんですか？

- ・活躍したい。名刺に記載できる。
- ・国から認められた技術者としての証明、クライアント・社会からの信頼獲得、自分の得意技術を活かして生涯社会貢献
- ・自分の知識を活用するための公的名称がほしい。かつては学位であったが、現在は学位と技術士は同格の扱いの様に感じる。
- ・エンジニア最高峰といわれる資格への、あこがれをかなえる。資格名称を活かし、希望部署に異動して、業績をあげる。人の役に立ちたいという自分の欲を満たす。
- ・お墨付きを得た技術者として社会に貢献する
- ・自らの発信に対し、顧客の信頼を向上させる事。
- ・自己のエキスパティ、身に着けたスキルを証明するため。
- ・仕事に生かせる技術系資格を取得する。学生時代に勉強した内容を再勉強する。顧客対応のため、金属に関する広く全般的な知識を習得する。
- ・将来の収入のため。培った科学技術の社会への還元する上で、そのポテンシャルの高さを示す「客観的なお墨付き」を得るため。
- ・技術の専門家として、まずは社内ですぐに立ちたい。
- ・個人の能力を高めるため、会社に技術者として認めてもらい対等に話を聞いてもらうため（自分はずうまいかなかったが）
- ・技術士になりたい（技術士の〇〇さんのようになりたい）
- ・専門職で国家資格を取得し、それを生かして社会貢献する人になりたい。
- ・技術士会のコミュニティに所属し、信頼できる仲間と共に専門分野を学び続けたい（ある意味、社会との接点をもつこと）
- ・自分の成長と社会貢献、自律と自立の確保、売上向上による収益安定化
- ・専門とする部門の幅広い知識を身につけ幅広い分野でコンサルが出来るように
- ・エンジニアとしての能力レベルの客観的評価を示すため
- ・自分の実力を知りたい。
- ・技術士の資格をもてたら、組織に縛られない、自由な立場で発言できる。
- ・技術士試験に合格し、技術士の資格を得る。

③現状はなんですか？

- ・過去問を見ると、知識が無いことに気付いた。
- ・受験準備段階
- ・認知度が低い
- ・技術士に求められるコンピテンシーを理解していない。技術士一次試験で問われる基礎知識を忘れている。二次試験の論文対策で、何から始めたらよいかわからない。
- ・技術者として社会に貢献したいが、技術の仕事から離れている
- ・学会協会でのプレゼンスは多少あるものの、裏打ちがない。個人としての責任感を顕在化させたいと思っている。
- ・会社に勤務していると、そこでの目標（製品開発での効率化、コストダウンなど）をクリアすることに没頭せざるを得ない。技術者として何ができる人なのか、第三者的に見られたときに明確にならない。できれば、自己のスキルを明確にしたい。それによって他者から的確に評価されたい。
- ・社内で公害防止管理者資格を取得した。試験科目が一部免除となる技術士受験を選定した。
- ・技術士にはなったが、思い描いていた理想とはかなり異なっている。兼業も制約大。確定申告が不要な年間20万円の小規模な活動（→兼業許可が不要）にとどまらざるを得ない。
- ・技術士取得より部署や肩書のほうが重視されるため、部署が違えばただの人
- ・自分の専門分野以外の学習が困難な点、時間が確保できない、仕事で勉強ができない
- ・実務的な経験は積んで来ているが、金属学的な知識は忘れていたものがあり、最新の金属技術も偏った分野しか知らない
- ・忙しくて中々勉強に集中できない。
- ・専門技術の学びができない環境に置かれている（技術者不在の環境）
- ・自分の能力を若干だが、社会のために活動ができています。
- ・自分の専門知識のとどまり、部門全体の知識が狭い
- ・最近世の中の進化に対して勉強不足を痛感する。
- ・社内では技術者仲間では一定の評価を得ている。それが世間で通用するののか。
- ・企業は、常に自社の立場や利益を守ることが最優先。
- ・技術者として自身のあるべき姿を想像し、資格取得の意欲が高まる。技術士会H/Pや試験参考書から試験情報や過去問題を手に入れた。試験範囲と現状知識の比較すると共に、会社での専門技術応用能力を発揮した技術体験を振り返る。

④目標はなんですか？

- ・1年目で1次試験合格。1次試験の自己採点后、合格を確信したら2次試験の勉強を開始する。
- ・決意後1～2年以内に1次試験合格、その後3年以内に2次試験合格。遅くとも退職前2年前までには技術士資格取得（最後の2年間は、独立開業に向けての準備）
- ・2年で2次試験に合格し、技術士となる。
- ・直近の技術士一次試験に合格する。その翌年の二次試験に合格して、技術士になる。
- ・今年中に今後の方向性を決める
- ・4年間で1次試験、総監、金属以外のもう一つの部門の計3部門を取得。企業技術士としていままでの業務経験を、「技術士」という形にする。
- ・業務経歴として書けるような目標を立案できるようになれば、技術士にチャレンジすべき。何かのプロジェクトを担った場合であれば3年間くらいのスパンと考えるので3年後、プロジェクトの目標を達成することが、いつまでに、何をやり遂げるかになる。
- ・二年以内。
- ・定年まで（早ければ60歳くらいまで）に、独立して食べて行けるほどの感触を得ておきたい。
- ・「すでに行っているが」「企業内技術士会の設立と情報共有・周囲への認知向上」
- ・今年中に1次試験突破し、来年2次試験を受ける
- ・2年で技術士になる
- ・来年度に受験し、必ず合格できるように、本年6月から準備します。
- ・最短の期間で、1次試験、二次試験に合格すること。受験挑戦のチャンスは3回まで。3回不合格ならその資格に不適正と考え、受験を断念する。
- ・今年中にもものづくりコーディネーターの役を勝ち取る。
- ・関連する展示会やセミナーに参加し技術動向、最新知識を身に着ける。

yes! metalに毎回出席

- ・再度、脳の活性化を図りたい。
- ・定年前までに、技術士2次試験に合格する。
- ・年内に技術士の受験勉強に取り掛かる。
- ・試験勉強...各試験日1週間程度前まで、業務経歴作成...2次試験申込みまで、高度な技術体験...2次試験申込みまで、口頭試験対策...口頭試験まで、専門技術応用能力UP...継続研鑽

⑤ギャップはなんですか？

- ・過去問を見ると、知識が無いことに気付いた。
- ・受験準備段階
- ・認知度が低い
- ・技術士に求められるコンピテンシーを理解していない。技術士一次試験で問われる基礎知識を忘れている。二次試験の論文対策で、何から始めたらいかがかわからない。
- ・技術者として社会に貢献したいが、技術の仕事から離れている
- ・学会協会でのプレゼンスは多少あるものの、裏打ちがない。個人としての責任感を顕在化させるべきと思っている。
- ・会社に勤務していると、そこでの目標（製品開発での効率化、コストダウンなど）をクリアすることに没頭せざるを得ない。技術者として何ができる人なのか、第三者的に見られたときに明確にならない。できれば、自己のスキルを明確にしたい。それによって他者からの確に評価されたい。
- ・社命で公害防止管理者資格を取得した。試験科目が一部免除となる技術士受験を選定した。
- ・技術士にはなったが、思い描いていた理想とはかなり異なっている。兼業も制約大。確定申告が不要な年間20万円の小規模な活動（→兼業許可が不要）にとどまらざるを得ない。
- ・技術士取得より部署や肩書のほうが重視されるため、部署が違えばただの人
- ・自分の専門分野以外の学習が困難な点、時間が確保できない、仕事で勉強ができない
- ・実務的な経験は積んで来ているが、金属学的な知識は忘れていたものがあり、最新の金属技術も偏った分野しか知らない
- ・忙しくて中々勉強に集中できない。
- ・専門技術知の学びができない環境に置かれている（技術者不在の環境）
- ・自分の能力を若干だが、社会のために活動ができています。
- ・自分の専門知識のとどまり、部門全体の知識が狭い
- ・最近では世の中の進化に対して勉強不足を痛感する。
- ・社内では技術者仲間では一定の評価を得ている。それが世間で通用するの。
- ・企業は、常に自社の立場や利益を守ることが最優先。
- ・技術者として自身のあるべき姿を想像し、資格取得の意欲が高まる。技術士会H/Pや試験参考書から試験情報や過去問題入手。試験範囲と現状知識の比較すると共に、会社での専門技術応用能力を發揮した技術体験を振り返る。

⑥対策はなんですか？

- ・試験問題で問われる技術について、理解する。
- ・効率的な試験勉強法の実施。社内先輩技術士からのサポート、受験セミナー活用による試験対策指導
- ・過去問題の解答を繰り返す。
- ・合格へ向けた計画を作る。時間を確保して勉強を継続する。健康に気を付ける。
- ・社内異動については以前から希望を出しているが実現しないので、独立を検討中
- ・知識の取得と日常業務での実践。技術的理解の薄い関連分野の方々との積極交流による情報交換。
- ・ギャップを埋める自己研鑽が必要となる。そのためのセミナーを受講したり、先輩技術士の指導を受けるなど。
- ・「図解入門よくわかる最新金属の基本と仕組み」を熟読し、金属に関する広く全般的な知識を短期間で再勉強して習得する。
- ・社内規定（あるいは法律？）を作り変える必要があり、ヒラには手の付けようがない。何もできない。
- ・社内での知名度の向上＝活動を継続し続ける
- ・資格活用のイメージを高める。何のためにその資格が必要なのかよく考える
- ・学生時代の教科書の学び直し、インターネット等で最新技術の調査、過去問収集、金属技術士のホームページを見る
- ・有休休暇などを上手く使い、確実に合格するための勉強を行う。古い例を出しますが、武田信玄のように負ける戦は行わない。
- ・ウェブサイトで有用な情報収集。受験環境の整備と合格までのロードマップ（計画書）づくり。それに基づく、学びの実践。
- ・県内中小企業への活動貢献実績を積む
- ・休日のセミナーや展示会に参加する
- ・各種試験にチャレンジすることで、リズムを作る。
- ・通信教育を受講して指導を仰いだ。田中さんのブログや、雑誌「金属」の技術士の内容から試験範囲やすべきことを学んだ。
- ・資格は金で買うもの、と考え、東京へ出向いて受験対策の講習を受ける。
- ・私の場合は社内に技術士はいなかったので試験参考書などの書籍から情報収集した。技術士会等の受験関連セミナーもあることはネットで知っていた。口頭試験対策は筆記試験結果発表を待たず、早めに始めておく。